

武雄市最後の重要(難)課題 100年構想は 下水道問題(生活排水処理)は 『浄化槽市町村整備』で**即**解決する!

ハートコミュニケーション
栄八通信

第18号

① 4 7 10 月末発行



武雄市議会議員
宮本 栄八
TEL・FAX 23-0750
携帯 090-5083-0793

下水処理の市の方針は 合併浄化槽整備

市民の方が、武雄市政に対して他市町と比べて、大きく生活基盤整備が遅れていると思われるのがトイレの水洗化に代表される、下水処理事業であります。

そこで、武雄市の下水処理の考え方や方針を、順を追って整理してみることになります。

武雄市が、最初に、下水処理に関する施策を実施したのは、今から約10年前の、平成4年3月議会に、合併浄化槽の設置に対する補助金の交付を提案しています。

そして、同時に下水処理への方針を示している、そこには、『武雄市は、六角川の源流の地として、より浄化して水を川に流すため、合併浄化槽を基本として整備する。』ただ、浄化槽設置の用地の無い市街地については、公共下水道で整備する。』との方針。

また、合併浄化槽を基本にする理由は、公共下水道が、処理水をBOD(水の良さの代表的指標)20PPMで排出するのに対して、高度処理の合併浄化槽では、10PPM以下で排出できるからと言う。また、公共下水道の建設が、長期にわたることや、莫大な費用の割には本市のような人口密度の少ない所では投資効果が低いことや下水道汚泥処理問題もあげて、合併浄化槽を基本にする方針を理論づけてある。

現在の処理状況

●合併浄化槽の整備

補助以前の平成3年までに、旅館やホテル等13基の大型を含み16基が独自に設置されていて平成4年から、市補助で、年120基平均で、H15年度で約1350基で、独自設置が1650基と多い。

●農業集落排水事業

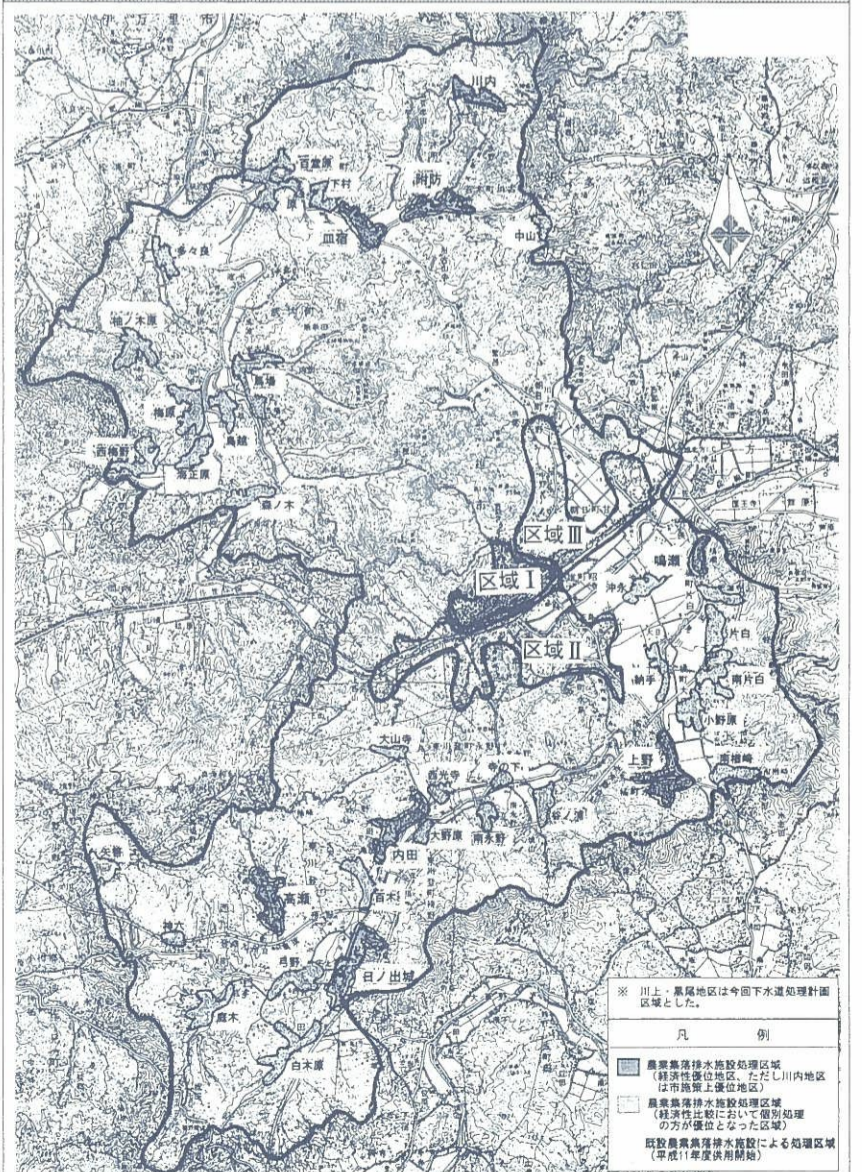
農産物の輸入自由化で、農家への見返りや圃場整備(田を広げて機械化しやすくする)事業が少なくなった替りに、農水省の事業柱となり、各地で取りくまれ、武雄市でも、農村部の水処理として、公共下水道より、国の補助率も少し多いので、平成8年に取り組む。優先順位等難しい選択で、政策的に、上水道水源のダムの上流の集落については、実施することを明示した。

具体的には、2ヶ所であるが、1ヶ所目は、西川登町の矢筈ダム上流の矢筈地区で、すでに平成8年に着手し、平成11年度には、使用開始している。事業費は、約4億7千万円で、処理戸数は58戸で、300人余りです。2ヶ所目は、若木町の本部ダムの上流の川内地区で、現在計画着手して、平成20年度に、完成予定で約3億7千万円で、処理戸数は、61戸で、270人余りを想定。

●公共下水道事業

前述の方針で、実施計画に上ってなかったが、鉄道高架による新区画整理地区に新築しても、くみ取り便所か?という、行政施策の

武雄市下水道等整備構想



計画と現実の違い

武雄市の、生活排水処理の近年の動きは、前述のように、市民の設置希望者に、設置費の40%を、国県市で7割づつ負担する施策をこつこつやっている状況で、いつまでも何基を整備するなど、将来像を示している事業推進でなく、良く言えばコンスタント、悪く言えば恒例行事のような形である。

農排についても、上水ダム対策のみで、矢筈や川内以外の他の地

下水道等整備構想の 見直を願う

しかし、今回、公共下水道を着手するに当り、この整備構想に示している、下水道での整備地区が3区域に別れていて、そのI区域の武雄町北部市街地を30年間で整備するとの方針が出された。

そうならば、下水道等構想と現実がリンクすることになり、この構想を早急に本気で、市民論

議をする必要が出て来た!

問題としては、
◎下水道地区のI地域整備に30年かかれば、次優先のII地域の朝日地区が30年で、その後II地域の武雄町南部が終るのは、100年程度先になる。
◎農排についても、処理区域が、30集落ぐらゐりあり、一施設3年かかればやはり100年程度かかることになる。今から、百年前と言え、明治の官営八幡製鉄所設立や外国でいえば、ライト兄弟が、初飛行したなど歴史的世界であり、約束が果たされたのは、英国の香港租借99年ぐらゐりのものである。

また、公共下水道や農排の耐用年数は、国交省データでは60年間であり、それまでの分の建て替えと、次地区の新設とが重なるなど、計画の信用性は薄い。
そこで、今回の提案であるが、『武雄市下水道等整備構想』を現実と見直して早急に見直してほしい。2面につづく

武雄市が、浄化槽を各戸に設置する。 「浄化槽市町村整備推進事業」の導入を

平成15年5月より環境省の、「浄化槽市町村整備推進事業」というのが、武雄市でも実施できるようなっていった。これは、現在、浄化槽は市民個人が設置するが、これを市町村が設置し、管理も市が行うものです。

これまで、武雄市が、水質向上の為、合併浄化槽を基本にしたが、他市より設置は多いが、急速に整備できないのは、浄化槽設置に100万円かかる、41万円は、

国県市で補助し、69万円は個人負担で、他の処理方式に比べ、市民負担額が大きいのが障害になっていると思われる。

今回の、公共が関与する、市町村整備では、個人負担は、1/10の1万円であり、管理費も、甘木市

水洗化の維持管理負担の平等化へ 「武雄市浄化槽管理組合」設立を

武雄市は、生活排水処理基本計画を、H13年に策定した。その中で、「生活排水処理は、電気、ガス、水道などと同様に利用者の料金負担によって実施する事業」として、受益者負担による、独立採算をめざしている。

●方式による管理負担の不平等

しかし、農業集落排水事業では維持費を利用料金で、まかなってない。矢筈52戸で、年間に450万円かかっているが、利用者からは300万円の収入しかなく、150万円は一般会計から補填。ちなみに、一世帯で平均年額5万円程度の受益者負担です。

一方、合併浄化槽の設置者は、維持費を全て自己負担している。ちなみに、水質検査や清掃など8万円程度の負担です。

この事業は、公共下水道が、人口密集している都市部をほぼ終了し、地方の番になったが、散居が多く効率が悪く自治体の財政負担が重くなるのを改善した国策で、

私は、実質5月からは議員になっていたものの、選挙公約の上水道値下げについて半年ぐらい研究していたが各地の合併の状況が進んで上水道の統合については、合併後に統合整理するのがほとんどだったので方向を、水洗化に変えた。私の所属は建設委員会と環境特別

また、今回、公共下水道を整備すれば、その利用料金との格差問題が出て来るのは当然です。ちなみに、鹿島市の単価で、水道使用量25㎡とした場合には年間4万円程度の負担となります。そうであるなら、合併浄化槽設置世帯の1/2の負担で良いこととなり、公共料金としては、大変不平等であるのは明白です。

私の提案としては、農排も公共下水道も、現在の使用料金レベルでは、維持費は、まかなえないので、もう少し負担を増すべきだと思います。

今回、特に問題としたいのは、合併浄化槽の管理についてです。建設委員会で、長野県佐久市に水洗化の住み分けを視察に行きま

したが、そこでは、合併浄化槽の管理は、市民が業者と個別契約するのでなく、「佐久市合併浄化槽組合」というのを組織して、一元管理をし業者と契約し、行政も支援しているせいなのか、武雄市の場合年間維持管理費が7万8150円かかるが佐久市は4万8000円であり、同じ合併浄化槽の負担で、年間に3万円の差があり、武雄市は、他市より上水道が高いと言った。

また、今回調べていて、武雄市も、H13年の生活排水処理計画の中に浄化槽管理組合を作る為の調査データや必要性は多く記載されていた。

そこまですべて、武雄市も解っていたなら、すみやかに、武雄市浄化槽組合を早く設立すべきだったと、一般質問でお願いした。市は検討するとの答なので、速かな実施を望む。

しかし、農業集落排水事業では維持費を利用料金で、まかなってない。矢筈52戸で、年間に450万円かかっているが、利用者からは300万円の収入しかなく、150万円は一般会計から補填。ちなみに、一世帯で平均年額5万円程度の受益者負担です。

委員会の副委員長で、視察先選定の原案を出せるので、水洗化関係の視察先を提案して行った。そこ

(一戸当り)	事業費	市負担	(個人)加入金	個人負担
公共下水道	350	88	15	0
農業集落排水	700	116	15	0
合併浄化槽(個人型)	110	14	0	69
浄化槽整備(市町)	110	24	11	0

表1 一世帯当りの整備に係る費用(万円) (宅内費用は含まず)

の資料の一部から、この市町村整備の事を初めて知り、もっと早く気付くべきと反省。前石井市長が言っていた、六角川上流から、合併浄化槽より浄化された水を流すとの理念の実現が可能になると確信し、12月議会で市長に提案したが市長は、検討を約束された。

また、合併予定の山内町は、農排で、ほぼすでに整備しているが、非効率で農排の接続できなかった世帯には平等を期すため、合併浄化槽を町が配付すると言う。武雄市も、公共整備の不平等について解決策を出して欲しい。

が得策との判断と思う。一方、小委員会では、新市の名称委員会が、応募のあった約2千種の中から10種を選んで2月9日の本協議会にかけると手順。また、組織機構の委員会は、地域審議会や自治組織について議論されているが、全国的に同時進行で、先例が少ないため、公民館など社会教育的なコミュニケーション論を始めたが、本来合併して旧自治体などの地域の声を生かすための政治的自治組織でなければ、意味がないと思うし、合併のデメリットは解消できないと思う。

◎処理施設設置後の維持管理の個人負担金(比較)

	公共下水道	農業集落排水施設	浄化槽個人設置型	浄化槽市町村設置型
個人負担額	※1 3,680円	※2 4,280円	※3 6,513円	※4 5,000円

※1 水道使用量を23㎡とし、使用料1㎡当たり160円とした
 ※2 矢筈地区を例に、一般家庭用で4人世帯とする。使用料(1,000円+3,200円)
 ※3 7人槽で算出。維持管理費(年間)78,150円/12月
 ※4 7人槽で算出。事業実施市町村の例による(甘木市)

市町村合併の動向

議員名称	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回
武	平成16年1月6日(火) ○社会福祉 ○障害者福祉 ○高齢者福祉 ●使用料手数料	平成16年1月20日(火) ●国民健康保険 ●ごみ・し尿 ●納税関係 ●地方税	平成16年2月9日(月) ○条例規則 ○国際交流 ○農業関係 ○学校給食	平成16年2月19日(木) 臨事 ●新市建設計画	平成16年3月2日(火) ○一部事務 ○学校教育 ○ ○社会福祉	平成16年3月30日(火) ●上水道 ●下水道 ○社会教育 ○社会体育 (終了)

議となっていた、山内町の住民票等の手数料は、山内町長が自ら発言し、200円から、他市町の300円に合わせるとの発言で決着。理由は、住基ネットなど広域で取れるなどの理由である。しかし、私は山内町は、老人福祉センターがないなど、百円の少額の住民利益よりも、トータルとしての住民利益

私の質問と市の答弁

1 行財政運営

●平成16年度の方針

来年度予算の編成時期を迎えた小泉内閣は、予算の一兆円削減や政策として年金改革を示している。武雄市の来年度の方針を分りやすく市民に示してもらいたい。

【回答主旨】

予算査定は、対前年10%削減で政策は、1市3町合併の推進。

●民間委託の推進は具体的な取組を

市が民間委託を計画している、杵島向陽園は、委託後改築と言うことで、実施されなければ、入所者の悪い環境が続く。また保育所についても、委託にそなえて、半数の保育士は臨時職員であり、この状況の長期化は問題がある。

そこで、前回は、具体的委託条件の提示を求めたが、今回は、委託の受け皿や法人の確保を具体化して、早期実現してほしい。

【回答主旨】

民間委託条件及び受皿確保についても、進めていきたい。

※解説 1月14日新聞のとおり、向陽園の委託は公募された。

また、東・西川登保育所を統合した、(新川登) 保育所民営化も最近公募された。

●ふるさと創生資金残の武雄市活用は

竹下首相の時のふるさと創生資金一億円は、柏岳一部の購入や巨木のビデオ等に使用され、数千円残があると思うが、合併後もこれは、現、武雄市民で利用できると思うので、青少年などの目的基金にして、主旨の明確化が必要。

【回答主旨】

特に、別の目的基金にしないで、現武雄市で使えるものと思う。

2 環境施策

●下水道課の設置を

平成9年頃の部長制導入の時に課の再編論議で、浄化槽は生活環境課・公共下水道は都市計画課・農排は農林課と分かれて事業せず、汚水対策を一元化して、下水道課の創設を私も求めていた。

しかし、市は、公共下水道も着手しただけで、実質的には、今、統合しても、非効率との返答だった。そこで、今回、公共下水道に

取り組むならば、汚水対策(下水道)課の新設が必要ではないか。

【回答主旨】

課の新設について検討する。

3 子育て支援

●病後児保育の実施の市の方針

前回、武雄市民病院での実施を提案したが、小児科医がいなく対応できないとの答だったが、市内小児科医院に相談しているのか。

【回答主旨】

以前、市内医院に問い合わせたが場所などで現在は無理とのこと。ただ、嬉野町が樋口医院で行っているが、そこを武雄市住民も利用できるし、実際利用実績もある。

4 教育行政

●二期制導入問題

11月の市報に「学校2学期制の検討を始めた。」との記事があり、情報公開をしながら学校改革に取り組んでいて、歓迎した。

しかし、同11月中に開かれた、小学校の説明会では、来年度から実施するとの説明のようで、また、別の情報では、市内全校一斉に実施すると聞く。あまりに結論が早い。たとえば、期末テストが少なくなるが、部活のテスト休みもなくなれば、勉強する機会が減少するのでは? また、その代わりに1回のテスト等をするとのことだが、その具体的内容など、不明確な点が多い。また、全校一斉に始めて、もし、悪くて3学期制にもどすのは困難でないのか?

また、H17年に合併すれば、一斉の意味もなくなるので、H16年1年間考えても良くないか?

【教育長答】

二期制制を実施するかの最終判断は、各学校の校長の判断である。※ただ横並び実施の可能性大。

H9年頃、授業参観に行って、自分の子供のクラスの先生の声より、その後の先生の声がはつきり聞こえた。そこで、戸扉をつけてもらいたいと要望していたが、オープン教室に合った、カリキュラムに変えていけば問題は無いとの返答だった。しかし、もう5年以上たったが、そのようになっていない。

そこで、早く戸をつけて、集中して学べるようにしてもらいたい。

【教育長答】 学校からも、要望があっているので、戸を設置したい。

●基礎学力向上への取り組み N H K、衛生放送を見ていたら福岡県、遠賀町は、基礎学力の向上を、言葉で言うだけでなく、具体的向上を図るために、学力テストをして、A B CのランクのCを無くすことを、学力向上の目標とし、指導方法は、各学校の自由で実施していた。武雄市も、成績の相対評価から絶対評価に変わったのだから、Cランクの基礎学力の不足の子供の底上を図りBランクにして、基礎学力を付けてはどうか?

【教育長答】 武雄市の学校は、最近全体の学力は全国レベルになった。※底上げ議論に返答なし。

●高等学校再編の中高一貫教育 武雄市教育委員会の、この高校再編に対する対応は、県立学校再編であり、口を出す立場にないと言う。それでは、市民論議の話合いの場だけでも作って欲しいと求めたが、作らないと言う。

【教育長答】

しかし、道庁行政においては、市道に継がる県道については、市道と県道が、住民に使いやすくなる為に、課は県へ、提案・陳情は行っている。武雄市教育委も、権限のあるなしでなく、お願はできるはずだ。今度、新高校整備推進委員会がスタートし、具体的内容が議論されると言うが、そのメンバーに市教委も入っている。口は出せないでは済まないはず。クラス減は不合理と言うべき。

【教育長答】

私の考えと、県の考えは同じだったので、発言せず見守った。

新高校整備の委員会では発言していく。

※教育長の変化は君子豹変すといっただ所だが、今後を期待。

市長提案 (議案の主な内容)

●戸籍事務の電算化を杵藤広域圏で処理 これは、現在、住民票や税関係が、広域圏の杵藤電算センターで共同処理されている。戸籍に関しては、法律の関係で、平成6年に電算可能になったが、費用と効果との比較から、H8・H10まで広域圏で検討したが合意できず、嬉野町と有明町は、独自に電算化を進めていた。今回、合併もあって、広域圏で共同処理することとなり、広域圏の規約を改正する為の議会の承認の提案。

ちなみに、現在は、和紙に記入し、市民課の後で、書庫を回転させながら検索している。

●ふれあい広場整備費 朝日町の繁昌ダムのサイトを、地元で、整地・フェンスや収納庫を整備されたが、その事業に対して『コミュニティ助成補助金』250万円を市を通して支給したものの。以前に、やぶさめ保存会も活用してある。

具体的には、(財)自治総合センターからの補助金で、県を通じて毎年10月頃、受け付けがあると。市内追加受け付けもあるらしい。市内の区や団体も、何かあれば、申込んでみては。市の生活環境課が窓口となっている。

●図書館の防犯カメラ設置工事 今回、図書館・歴史資料館に、防犯カメラが付く。館長もプライバシーの関係で長く検討していたが決断。7台のカメラを設置する予定で、費用は約211万円。

主な理由は、トイレでのいたずらや、貴重な資料を守る為で、本やビデオの室には付けず、ロビー近辺である。費用が比較的安いのは、もともと、開館当初から、配線はしてあったと言う。

●朝日小の机イス買い替え費 今回、改築中の朝日小の2・3・6年生の分を、新しい床がキズつくのを防止する為に購入。一年生の分は以前変えていたので、全部整う。費用は、450万円。

●朝日小の机イス買い替え費 毎年、5・6百万円分は、B版からA版の広い机に各学年順次交替しているらしい。ちなみに、机イスの1セットの単価は、定価3万円だが、大量見積では1万5千円程度と言う。また、交換した机イスは、希望者に譲渡できるとのこと。希望者は教委に連絡を。

●競輪場の車券売場の整備費 経営改善に取り組んでいる競輪課だが、今回、全国47場のうち、収益率の悪い競輪場の14場に対する、上部団体からの約4千9百万円の補助金を受け、改修する。

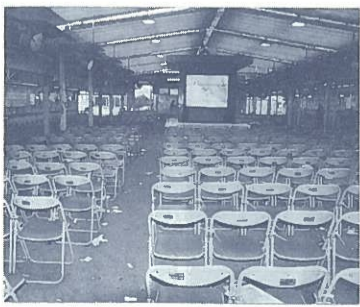
主な内容は、第1投票所付近(物産まつり会場)の床面カラー補装整備、照明の取り替え、女性や子供の休けい室などを作り、明るい雰囲気を作り出すと言う。

●市職員・特別職の給料・ボーナス削減 複雑なので簡単に伝えると、国の人事院勧告に従い、人件費を削減した。給料で言えば、月額市長が1万円、議員で4千円程度に当たる。職員分との減額の合計は約8千2百万円である。その金は職員退職金等にあてられた。

12月議会



オープン教室



競輪場の車券売場の整備費

矢筈ダムの「アオコ」問題

西川登にある、矢筈ダムは、上水道や工業用水の為のダムです。実際は、一旦川に流し、取水口から汲み上げます。このダムに、H13年ぐらいから、アオコが大量発生し、同年の10月より、上水道への利用を中止しています。

原因は、湖底の堆積物との見方をしている。今後管理をしている県が、レギュレーション（空気を送る装置）を設置する予定です。

ただ、私が以前議員の時、その上流の矢筈地区の農業集落排水が完成し、浄化処理施設ができた時、処理水をダムに流さない方がよいのではと、担当の産業委員だったので、当時の部長に言ったが、答は、上水道の取水口は下流の川であり、ダムに入らなくても、取水口には行く。また、逆に、ダムで希釈されるので、直接行くよりも良いのではと言われ、一理はあると思ひ強い反対はしなかったが、内心心配をしていた。

今回再度議員になり、この事実を聞き、市としては、まだ原因は不明との見解だが、私は前述のようなことから、やはり農排が関係している、「ダムで希釈される」でなく「ダムで蓄積し富栄養化された」と見ている。

現在、運が良いのか悪いのか、水余りで矢筈ダムの水はなくてもまかなえる。そこで一回ダムを干してもさしつかえないと思う。また、パイプでダムをう回して流す方法や、ピオトップと言って、水性植物園のような施設を作り、リンやチッソ分を減して、ダムに放流するなど何らかの対流を市に実施してもらいたいと言っていたが今回市も動いた。

農林課は、ダムの為でないと言

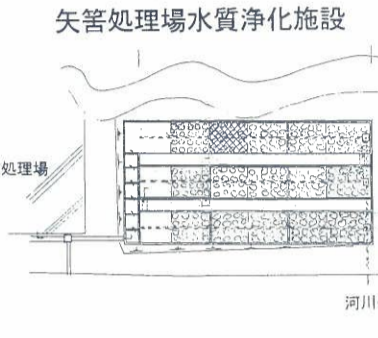
を流すとして、処理場の下に、国土交通省が熊本県で実施している水性植物シロガヤツリを利用し、富栄養化の原因である、リンやチッソを吸収させて流す「矢筈処理場水質浄化施設」を、280万円をかけて建設する。具体的には、図のように、水草を植えた側溝3列を3日間流れるうちに栄養分が吸収されると言う。

大いに効果を期待したい、もし効果がなければ、今後大変なことになることが予想される。

それは、武雄市は水あまりで今回のように、矢筈ダムから取水しなくても、西部広域水道で代替できるのでは、何ら困らない。

ただ、現在着手している、若木町の本部ダム上流の川内地区農業集落排水により、本部ダムにアオコが発生して取水できなくなった場合、標高の高い別の第2浄水場で配水している若木・武内・朝日の一部への給水に問題が出てくる可能性がある。その状況を見る為には、現在矢筈ダムにはアオコ（ミクロキストス）が繁殖している、本部ダムにはゴンポソフェリアが優占している、その変化を注視したい。

結局、上水道用ダムの水質保持の為に政治決断して、整備する農業集落排水なので、逆な状況にならないようにお願いしたい。



マイカル債損失の責任を考える

我々、水道利用者の料金で積み立てていた、減債基金で買った、マイカルの社債が、会社がつぶれ民事再生法の適用で、最後の3千万円の元金に対し、約1/3の1千万円がもどったが、後の2千万円の損失が確定した。

そこで、今回、何故そうなったのかを再点検してみた。

平成12年の10月に購入をして、平成13年の9月に更正法申請でたつたの丸一年のてん末だった。問題の原因は、①野村證券を信用して独自の調査をせず購入した。

②水道企業会計に、会計規程がなく、チェックができなかった。と

③水道の会計規程を作る。

④市長が水道管理者としての責任を取り、月給の30%を3ヶ月の約50万円減額するなど助役・収入役や担当職員の処分もした。

市は、これまで、水道事業は、独立した企業会計として、多くかかえこんだ施設費も市民に転嫁して高い料金である。処分で返された金は、一般会計に入り、水道会計ではない。一世帯当たり2千円分は、市の一般会計から水道企業会計に補助しても良いのではないのかと思う。

また、市民の声では、たった給料のわずかな額を減して、管理者の責任がその程度なのかとの疑問もある。

市長の一期づつの約千九百万円の退職金も、責任の重さに対してとの事というならば、責任が十分に果たせなければ、そこからの一部補填も考えられるのではないのか？

ちなみに、市長の3月の処分は、当時、佐賀市の第三セクターの3千万円の使途不明金の処分を参考にしたもの、調べて解った。それならば、今度、佐賀市長は財政難で月給の20%を任期中カットすることだが、それにならってほしいものである。

私が、H13年度の資料を調べる中で、特に、問題視するのは、このマイカル債の購入を会計課にもちかけた、野村證券である。

目録見書の資料には、当期利益が、対前年比90%マイナスになっている。そんな、誰が見ても良心のある人なら進められない会社の社債を素人の自治体に進めること自体、危険な橋と渡らせていると思う。たぶん、有能なセールスマンなら、自分自身が薦められても買わないと思う。

聞く所によると、市職員に対して、十分なリスクの説明もなく、まったく野村を信用していたらしい。さらに最大の問題点がある。それは、市職員がH13年の6月に、野村證券に対して、株価が下

がったが、大丈夫と尋ねたが、大丈夫ですとの答え。さらに8月に当債券の格付けが低下したので再度、野村に質問したが、大丈夫との回答だった。さらに、雑誌「エコノミスト」に不安資料の記事が載り、8月中に再度、野村證券に質問したが、回答は同じく大丈夫と明言していたと言う。

しかし、1ヶ月もたないH13年9月に、会社はつぶれ、民事再生法の適用を申請した。

見方によれば、6月の時点で、

マイカルの状況を、野村が正確に教えていれば、また別の道が選択できたのではないのか？つづれる前月まで大丈夫と言っていたのは、虚偽の報告ではないのか？

野村は、市に、その後、正常な取り引きであったが、結果的には迷惑をかけた、挨拶に来たと言いが、本当にそうなのか、市は、もう一度、野村の販売や大丈夫との返答に違法性がなかったのか弁護士等と話し合っって調査をしてもらいたい。

市営住宅「下山団地建替」工事

現在、武雄市には、武雄町と朝日町に、11ヶ所の市営住宅があり戸数は、約450戸がある。

鹿島市は、約340戸で、単純に比較すると約百戸多い。

一方、市の市営住宅に対する考えは、もう新規建設はせず、現在の戸数で、随時建替をする方針。

今現在で、第2山下・中野・栗原の3住宅224戸で全体の約半分を建替えた状況である。

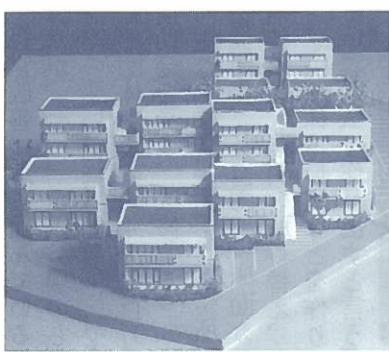
一番古いのは、武雄小の北にある第2赤尾住宅で、昭和30年に建られ、市政と同じ約50年をへているが、鉄筋住宅のため、耐用年数が70年と言うことで、昭和43年に建設した。下山住宅が木造で、耐用年数が30年というので、今回、H16・17年で、15戸づつ30戸を建替える。

現在の平屋を鉄筋2・3階建て6棟に収約し、駐車場も作る。

ちなみに、市営住宅に入れる人は、世帯の月収が20万円以下の人で、家賃は収入により異なる。ただし、月収40万以上になると退去しなければならない。

申込みは、2月に市建設課で受付けて、抽選して決定する。

また、市内に県営住宅も4団地あるが、総合庁舎の県住宅供給公



完成予想図

制作後記と今後のプラン

改めて、新年あけましておめでとうございます。今年は、さらに議員専門の具現化を進めます。

最近、また体重が増えてしまいました。楽はしてないつもりですが、たしかにイスに座っている時間は長くなっています。今年、今回話題に上げた、水洗化について、担当課と共に確実に実施に結びつけていきたいと思ひます。

また、市民の方の意見や苦情話し相手もお受けします。まずはお電話を。